

法学部

入学から現在までの意識・行動に関して、法学部では「今の学部に入って良かった」が84.5%で1位になっており、大半の学生がこの学部を選択したことに満足していることがわかります。「できるだけ多くの授業に出て良い成績をとろうと思った」が72.8%で2位、次に「基礎学力の不足を痛感する」が71.2%で続いており、勉学意識の高い学生の比率が高くなっています。他学部と比較すると「日大より高い水準の大学に入学したかった」が59.6%と高く不本意入学意識をもった学生が多いものの、現在は満足度や勉学に対する意欲は高まっています。また、明治政府の初代司法大臣である「学祖名を知っている」が67.1%で14学部中最高、「自分の学部に誇りをもっている」も66.7%と高いことから、学部への帰属意識が高いと言えます。

平成9年度と比較すると、「入学後、勉学意欲がもてるようになった」(21.8ポイント増)や「入学直後に比べると日大の良さを認めるようになった」(16.9ポイント増)などで増加率が高く、入学後の勉学意欲や本大学に対する評価の高まる傾向が顕著に見られます。

入学から現在までの意識・行動(上位20位)

平成9年度からの増減(ポイント)

順位	意識・行動	割合	平成9年度からの増減(ポイント)
1	今の学部に入って良かった	84.5%	8.9
2	できるだけ多くの授業に出て良い成績をとろうと思った	72.8%	7.3
3	基礎学力の不足を痛感する	71.2%	*
4	日大に入って良かった	68.7%	1.1
5	入学直後に比べると日大の良さを認めるようになった	68.1%	16.9
6	学祖名(山田顕義先生)を知っている	67.1%	-1.9
7	自分の学部に誇りをもっている	66.6%	4.2
8	校舎内で火災・地震等発生時の安全性に不安を感じず	63.0%	*
9	入学後、人間性が豊かになった	61.1%	13.0
10	ぼんやりと過ごす時間が多い	60.1%	1.6
11	入学後、勉学意欲がもてるようになった	59.8%	21.8
12	どうしても日大より高い水準の大学へ入学したかった	59.6%	4.5
13	ボランティア活動を今後してみたい	58.3%	5.0
14	自分の学部のホームページをよく見ている	57.5%	*
15	東京の大学に入学したかった	56.7%	12.1
16	大学は学生の個人情報に細心の注意を払っている	55.2%	*
17	入学時に卒業後の進路・就職を意識していた	54.4%	1.4
18	今、はっきりとした目標をもって勉学している	52.6%	7.0
19	日大のスポーツの活躍は誇りになる	52.1%	3.3
20	自分の学部出身者は社会に有利	51.8%	-0.5

*は平成9年度に無かった項目

文理学部

入学から現在までの意識・行動に関して、文理学部では「今の学部に入って良かった」が83.2%で1位になっています。「日大に入って良かった」も77.1%と高く、大半の学生が大学や学部の選択に関して満足していることがわかります。しかし、「自分の学部の出身者は社会に出てから有利だと思う」(33.4%)や「自分の学部は今後益々世間で評価されると思う」(33.1%)は他の学部よりも低く、世間からの評価に自信を持ってない学生が多いことがうかがえます。

平成9年度と比較すると、「入学後、勉強意欲がもてるようになった」が14.3ポイント、「入学直後に比べると日大の良さを認めるようになった」が9.2ポイント増加しており、勉強意欲と日大に対する評価が高まっています。「日大のスポーツの活躍は誇りになる」は14学部中最高(67.1%)であり、8.5ポイント増加していることから、文理学部では特にスポーツへの関心が高まっているようです。

入学から現在までの意識・行動(上位20位)		平成9年度からの増減(ポイント)	
1	今の学部に入って良かった	83.2%	4.5
2	日大に入って良かった	77.1%	-1.1
3	基礎学力の不足を痛感する	71.9%	*
4	入学直後に比べると日大の良さを認めるようになった	69.1%	9.2
5	日大のスポーツの活躍は誇りになる	67.1%	8.5
6	ボランティア活動を今後してみたい	61.7%	6.7
7	できるだけ多くの授業に出て良い成績をとろうと思った	60.6%	-0.7
8	入学後、人間性が豊かになった	58.1%	-3.2
9	ぼんやりと過ごす時間が多い	57.5%	-0.3
10	大学は学生の個人情報に細心の注意を払っている	53.9%	*
11	勉強のためにゆとりの時間がもてない	53.5%	8.5
12	入学後、勉強意欲がもてるようになった	53.0%	14.3
13	自分の学部に誇りを持っている	49.0%	2.4
14	東京の大学に入学したかった	48.8%	6.0
15	必要な基礎学力の補習を実施して欲しい	48.5%	*
16	校舎内で火災・地震等発生時の安全性に不安を感じず	47.8%	*
17	今、はっきりとした目標をもって勉強している	47.6%	3.5
17	栄養のバランスに気がつかっている	47.6%	-8.3
19	入学時に卒業後の進路・就職を意識していた	47.4%	6.8
20	日大が出るスポーツを見に行ってみみたい	46.8%	*

経済学部

入学から現在までの意識・行動に関して、経済学部では「今の学部に入って良かった」「基礎学力の不足を痛感する」「日大に入って良かった」という学生が70%台で上位を占めています。14学部の中では、「東京の大学に入学したかった」が59.4%で最も高いという特徴が見られます。日本経済の中心地で経済動向を肌で感じながら学びたいと思った学生が多いと考えられます。一方、「今、はっきりとした目標を持って勉学している」は41.8%で14学部中最も低くなっています。

平成9年度と比較すると、「入学後、勉学意欲がもてるようになった」が31.4ポイント増で14学部中最大の増加幅、「入学直後と比べると日大の良さを認めるようになった」が23.4ポイント増、「今の学部に入って良かった」も22.3ポイントの大幅な増加となっています。大学側の勉学に対する取組みと、社会情勢の大きな変化によって、学生の意識が変化したものと考えられます。

入学から現在までの意識・行動(上位20位)

		平成9年度からの増減(ポイント)
1	今の学部に入って良かった	22.3
2	日大に入って良かった	4.1
3	基礎学力の不足を痛感する	*
4	できるだけ多くの授業に出て 良い成績をとろうと思った	7.1
5	校舎内で火災・地震等発生時の 安全性に不安を感じる	*
6	入学直後に比べると 日大の良さを認めるようになった	23.4
7	入学後、人間性が豊かになった	6.7
7	日大のスポーツの活躍は誇りになる	6.2
9	東京の大学に入学したかった	8.4
10	ぼんやりと過ごす時間が多い	-3.4
11	ボランティア活動を今後してみたい	3.3
12	必要な基礎学力の 補習を実施して欲しい	*
13	大学は学生の個人情報に 細心の注意を払っている	*
14	自分の学部の学部長名を知っている	2.6
15	入学後、勉学意欲がもてるようになった	31.4
16	どうしても日大より 高い水準の大学へ入学したかった	5.8
16	日大が出るスポーツを見に行ってみたい	*
16	自分の学部の ホームページをよく見ている	*
16	学内での盗難や 器物破損の危険性を感じる	*
20	今、将来の職業をどうしたいかが はっきりしている	7.9

商学部

入学から現在までの意識や行動について、商学部では「今の学部に入って良かった」が77.1%で1位、「日大に入って良かった」が66.9%と肯定的な学生が大半ですが、この上位2つの項目は他の学部と比較すると低く、前者は14学部中10位、後者は14学部中最下位となっています。さらに「日大より高い水準の大学へ入学したかった」も54.5%と法学部に次いで2番目に高く、入学直後は複雑な心境の学生が多数を占めていたものと思われます。新校舎建設が進む中、3年前の調査では「校舎内で火災・地震等発生時の安全性に不安を感じず」が72.9%で1位でしたが、今回調査では57.9%と大幅に減少し、新校舎への期待は高まっていると言えそうです。平成9年度と比較すると、「入学後、勉強意欲がもてるようになった」が16.4ポイント増加し、真剣に勉学に取り組む学生が増加する傾向が見られます。「良い影響を受ける教員に出会えた」も12.2ポイント増加しており、大学側の努力が実を結んでいると言えそうです。

入学から現在までの意識・行動(上位20位)

平成9年度
からの増減
(ポイント)

順位	意識・行動	割合	増減(ポイント)
1	今の学部に入って良かった	77.1%	4.5
2	日大に入って良かった	66.9%	-6.3
3	基礎学力の不足を痛感する	66.7%	*
4	できるだけ多くの授業に出て 良い成績をとろうと思った	61.0%	2.8
5	入学後、人間性が豊かになった	60.7%	-1.0
6	校舎内で火災・地震等発生時の 安全性に不安を感じず	57.9%	*
7	入学直後に比べると 日大の良さ認めるようになった	57.3%	-0.3
8	日大より高い水準の 大学へ入学したかった	54.5%	9.4
9	入学後、勉強意欲がもてるようになった	54.2%	16.4
10	自分の学部出身者は社会に有利	54.0%	6.6
11	ぼんやりと過ごす時間が多い	53.7%	-1.8
12	日大のスポーツの活躍は誇りになる	53.1%	-4.7
13	東京の大学に入学したかった	52.8%	2.3
14	栄養のバランスに気がつかっている	52.0%	5.8
14	ボランティア活動を今後してみたい	52.0%	-0.2
16	学内での盗難や 器物破損の危険性を感じず	51.7%	*
17	自分の学部の ホームページをよく見ている	51.1%	*
18	入学時に卒業後の進路・就職を 意識していた	49.4%	7.4
18	良い影響を受ける教職員に出会えた	49.4%	12.2
20	今、はっきりとした 目標をもって勉学している	49.2%	7.6

芸術学部

入学から現在までの意識や行動について、芸術学部では「今の学部に入って良かった」が88.9%と14学部中で2番目に高くなっています。次いで「日大に入って良かった」が71.0%と高く、入学時の学生の学部や大学に対する満足度は高いことがわかります。3位の「入学後、創造性が養われた」や5位の「入学後、人間性が豊かになった」、6位の「よい影響を受ける教職員に出会えた」などの項目は前回調査と同じく14学部中最高であり、入学後の評価が高い点が芸術学部の特徴の一つと言えます。

平成9年度と比較して、「日大は自分の才能を伸ばしてくれると思う」が12.7ポイントの増加、「自分の学部に誇りを持っている」が14学部中2位の66.7%であることから、日大や学部に対する帰属意識が強く、その傾向も高まっていることがうかがえます。新校舎も次々と完成し、「8つのアート 1つのハート」のキャッチフレーズの下、気持ちも新たに才能に一層の磨きをかける環境がさらに向上しつつあると言えそうです。

入学から現在までの意識・行動(上位20位)		平成9年度からの増減(ポイント)	
1	今の学部に入って良かった	88.9%	2.7
2	日大に入って良かった	71.0%	2.9
3	入学後、創造性が養われた	70.4%	8.7
3	基礎学力の不足を痛感する	70.4%	*
5	入学後、人間性が豊かになった	69.0%	5.7
6	良い影響を受ける教職員に出会えた	68.7%	5.9
7	自分の学部に誇りをもっている	66.7%	1.8
8	入学後、勉強意欲がもてるようになった	59.3%	8.8
9	できるだけ多くの授業に出て 良い成績をとろうと思った	54.9%	-2.0
10	学内での盗難や 器物破損の危険性を感じる	54.5%	*
11	入学時に卒業後の進路・就職を 意識していた	53.2%	-8.5
12	入学直後に比べると 日大の良さ認めるようになった	52.5%	11.0
12	栄養のバランスに気がつかっている	52.5%	3.0
14	ぼんやりと過ごす時間が多い	51.2%	6.5
15	今、はっきりとした 目標をもって勉強している	50.2%	-2.5
16	校舎内で火災・地震等発生時の 安全性に不安を感じず	49.8%	*
17	夕食は普段は一人で食べている	48.5%	1.2
18	日大は自分の才能伸ばしてくれると思う	47.8%	12.7
18	大学は学生の個人情報に 細心の注意を払っている	47.8%	*
20	ボランティア活動を今後してみたい	46.5%	-2.4

国際関係学部

入学から現在までの意識や行動について、国際関係学部では「今の学部に入って良かった」（74.9%）「日大に入って良かった」（72.8%）「自分の基礎学力の不足を痛感する」（72.3%）「できるだけ多くの授業に出て良い成績をとろうと思った」（71.5%）が高くなっており、満足度の高さや勉学への前向きな姿勢が感じられます。一方で「ぼんやりと過ごす時間が多い」（60.2%）は14学部中最高で、比較的のんびりと過ごす学生も多いことがうかがえます。

平成9年度と比較すると「入学後、勉学意欲がもてるようになった」は19.5ポイント、「日大出身者は社会に出てから有利だと思う」の項目では15ポイントの増加となっています。これは、国際交流学科・国際ビジネス情報学科増設(平成11年)など複雑化する国際社会に対応するためのさらなる先進的な教育や、アカデミック・アドバイザー制の実施(平成17年度)による学生一人ひとりへのきめ細かい指導などが学生の意欲を高めた結果と考えられます。

入学から現在までの意識・行動(上位20位)		平成9年度からの増減(ポイント)	
1	今の学部に入って良かった	74.9%	5.5
2	日大に入って良かった	72.8%	3.8
3	基礎学力の不足を痛感する	72.3%	*
4	できるだけ多くの授業に出て良い成績をとろうと思った	71.5%	3.2
5	入学後、人間性が豊かになった	65.4%	6.1
6	日大のスポーツの活躍は誇りになる	64.1%	16.7
7	ボランティア活動を今後してみたい	63.6%	1.7
8	入学直後に比べると日大の良さ認めるようになった	63.4%	11.9
9	良い影響を受ける教職員に出会えた	61.5%	13.0
10	ぼんやりと過ごす時間が多い	60.2%	4.2
11	校舎内で火災・地震等発生時の安全性に不安を感じる	59.7%	*
12	大学は学生の個人情報に細心の注意を払っている	59.2%	*
13	学内での盗難や器物破損の危険性を感じる	58.6%	*
14	入学後、勉学意欲がもてるようになった	57.6%	19.5
15	自分の学部のホームページをよく見ている	56.8%	*
16	栄養のバランスに気がつかっている	55.5%	-1.2
17	必要な基礎学力の補習を実施して欲しい	54.5%	*
18	「日大生」であることを誇りに思っている	51.3%	10.3
19	日大出身者は社会に出てから有利だと思う	50.8%	15.0
20	入学時に学生生活を安全・快適におくるためのマニュアルやガイダンスが必要だと思う	50.0%	*

理工学部

入学から現在までの意識や行動について、理工学部では「今の学部に入って良かった」が78.1%で1位、「基礎学力の不足を痛感する」が73.5%で2位、「できるだけ多くの授業に出て良い成績をとろうと思った」が73.2%で4位となっています。他学部と比較すると、項目ごとの比率はほぼ平均的です。

平成9年度と比較すると、「入学後、勉強意欲がもてるようになった」が26.7ポイント増と勉強に意欲的に取り組む学生が大幅に増加しており、教育方針である『質の高い、個性・特色ある人材の育成』が学生の勉強意欲をさらに高めていると言えます。

さらに、「入学直後に比べると日大の良さを認めるようになった」「良い影響を受ける教職員に出会えた」「入学後、創造性が養われた」「今、はっきりとした目標を持って勉強している」でも10～15ポイント増加しており、大学と教職員の努力が実を結んでいる様子がうかがえます。

入学から現在までの意識・行動(上位20位)

		平成9年度からの増減 (ポイント)	
1	今の学部に入って良かった	78.1%	4.4
2	基礎学力の不足を痛感する	73.5%	*
3	日大に入って良かった	73.2%	2.4
4	できるだけ多くの授業に出て 良い成績をとろうと思った	69.8%	6.6
5	入学直後に比べると 日大の良さを認めるようになった	64.2%	15.0
6	入学後、人間性が豊かになった	61.0%	4.5
7	勉強のためにゆとりの時間がもてない	59.9%	0.6
8	入学後、勉強意欲がもてるようになった	59.3%	26.7
9	自分の学部出身者は社会に有利	58.9%	3.6
10	ぼんやりと過ごす時間が多い	57.8%	-2.3
11	自分の学部に誇りをもっている	55.0%	0.2
12	自分の学部は今後 益々世間で評価される	55.0%	8.2
13	良い影響を受ける教職員に出会えた	53.9%	11.5
14	必要な基礎学力の 補習を実施して欲しい	53.5%	*
15	日大のスポーツの活躍は誇りになる	53.2%	9.4
16	日大出身者は 社会に出てから有利だと思う	52.8%	9.1
17	今、はっきりとした 目標をもって勉強している	52.4%	10.1
18	入学後、創造性が養われた	52.2%	10.5
19	今、将来の職業をどうしたいかが はっきりしている	51.0%	1.8
20	ボランティア活動を今後してみたい	50.1%	1.8

生産工学部

入学から現在までの意識や行動について、生産工学部では「日大に入って良かった」が73.8%で最高、「基礎学力の不足を痛感する」が70.8%で続いています。3位の「今の学部に入って良かった」(69.7%)は14学部中13番目と低く、「他学部、他学科に本当は入りたかった」が45.9%で14学部中最も高くなっており、不本意入学の意識は相対的に見て強いようです。しかし、平成9年度と比較すると「入学後、勉学意欲がもてるようになった」は25.7ポイントの大幅な増加、「良い影響を受ける教職員に出会えた」「今、はっきりとした目標をもって勉学している」「入学直後に比べると日大の良さを認めるようになった」などの項目で10ポイント以上増加しており、入学後の意識は高まる傾向が見られます。平成14年より開始された新カリキュラムの中で実施されている、『幅広い教養と経営能力を持った技術者を育成』するための『コース制導入による少人数による教育効果の向上』の成果が表れていると言えるかもしれません。

入学から現在までの意識・行動(上位20位)		平成9年度からの増減(ポイント)	
1	日大に入って良かった	73.8%	4.4
2	基礎学力の不足を痛感する	70.8%	*
3	今の学部に入って良かった	69.7%	10.4
4	できるだけ多くの授業に出て 良い成績をとろうと思った	62.8%	8.1
5	勉学のためにゆとりの時間がもてない	60.0%	1.5
6	入学直後に比べると 日大の良さ認めるようになった	59.2%	11.6
7	必要な基礎学力の 補習を実施して欲しい	57.8%	*
8	入学後、勉学意欲がもてるようになった	55.3%	25.7
9	入学後、人間性が豊かになった	54.4%	-4.7
10	学内での盗難や 器物破損の危険性を感じる	54.2%	*
11	ぼんやりと過ごす時間が多い	54.1%	-4.6
12	日大出身者は 社会に出てから有利だと思う	53.4%	2.9
13	入学時に卒業後の進路・就職を 意識していた	49.1%	8.6
14	良い影響を受ける教職員に出会えた	48.9%	16.2
15	ボランティア活動を今後してみたい	48.8%	5.4
16	自分の学部の ホームページをよく見ている	48.6%	*
17	今、はっきりとした 目標をもって勉学している	48.4%	12.1
18	校舎内で火災・地震等発生時の 安全性に不安を感じない	48.1%	*
19	入学後、創造性が養われた	48.0%	9.6
20	栄養のバランスに気がつかっている	47.8%	3.6

工学部

入学から現在の意識や行動について、工学部では1位の「基礎学力の不足を痛感する」(82.1%)、2位の「できるだけ多くの授業に出て良い成績をとろうと思った」(78.2%)はともに14学部中トップとなっています。さらに工学部では7位の「必要な基礎学力の補修を実施してもらいたい」も61.9%と14学部中最高、5位の「勉学のためにゆとりの時間がもてない」(62.7%)も14学部中4位となっており、学生が自分たちの学力や知識の向上のため意欲的に取り組んでいる様子がうかがえます。その背景には「将来の職業がはっきりしている」(34.5%、14学部中最下位)や「将来に希望もてる」(32.1%、14学部中13番目)など、将来に対する不安があるのかもしれませんが。

平成9年度と比較すると、「入学後、勉学意欲がもてるようになった」「今の学部に入って良かった」「自分の学部は今後益々世間で評価される」が14ポイント以上増加しており、『コース制の導入』など教育面での取り組みや教育環境の整備(サイバーキャンパス整備事業)が学生の勉学意欲や学部帰属意識を高めていると考えられます。

入学から現在までの意識・行動(上位20位)		平成9年度からの増減(ポイント)	
1	基礎学力の不足を痛感する	82.1%	*
2	できるだけ多くの授業に出て良い成績をとろうと思った	78.2%	7.6
3	日大に入って良かった	77.8%	9.7
4	今の学部に入って良かった	74.2%	15.8
5	勉学のためにゆとりの時間がもてない	62.7%	4.9
6	入学直後に比べると日大の良さ認めるようになった	61.9%	8.1
6	必要な基礎学力の補修を実施して欲しい	61.9%	*
8	自分の学部のホームページをよく見ている	59.9%	*
9	日大出身者は社会に出てから有利だと思う	59.5%	7.3
10	ぼんやりと過ごす時間が多い	57.5%	-4.1
10	大学は学生の個人情報に細心の注意を払っている	57.5%	*
12	入学後、勉学意欲がもてるようになった	53.6%	18.0
12	自分の学部出身者は社会に有利	53.6%	12.0
14	入学後、人間性が豊かになった	52.4%	-4.8
14	「日大生」であることを誇りに思っている	52.4%	2.4
16	学内での盗難や器物破損の危険性を感じる	51.6%	*
17	夕食は普段は一人で食べている	51.2%	-2.2
18	栄養のバランスに気がつかっている	46.8%	1.2
19	自分の学部は今後益々世間で評価される	46.0%	14.1
20	日大は今後益々世間で評価される	45.6%	0.3

医学部

学生の意識・行動を見ると、医学部では「今の学部に入って良かった」が92.3%で1位、14学部中でトップとなっています。2位が「自分の学部に誇りをもっている」(78.8%, 14学部中トップ)、3位が「自分の学部の学部長名を知っている」(77.9%, 14学部中2位)となっており、満足度や学部帰属意識は非常に高いと言えます。さらに、8位の「今、はっきりとした目標をもって勉学している」(73.1%)も14学部中最高であり、進路や職業がはっきりしていることから、職業を意識し目標をもった勉学に励んでいる様子が浮き彫りになっています。「校舎内で火災・地震等発生時の安全性に不安を感じる」学生は74.0%となっており、校舎の老朽化を危惧する声も強いようです。

平成9年度と比較し「入学後、勉学意欲がもてるようになった」が21.4ポイントの大幅増となっており、チュートリアル教育実施の成果が引き続き反映されているようです。

入学から現在までの意識・行動(上位20位)

平成9年度
からの増減
(ポイント)

順位	意識・行動	割合	平成9年度からの増減(ポイント)
1	今の学部に入って良かった	92.3%	5.1
2	自分の学部に誇りをもっている	78.8%	-5.2
3	自分の学部の学部長名を知っている	77.9%	-19.7
4	入学時に卒業後の進路・就職を意識していた	77.4%	-1.0
5	自分の学部出身者は社会に有利	76.0%	6.4
6	今、将来の職業をどうしたいかがはっきりしている	74.0%	-2.8
6	校舎内で火災・地震等発生時の安全性に不安を感じず	74.0%	*
8	今、はっきりとした目標をもって勉学している	73.1%	9.9
9	日大に入って良かった	71.2%	-2.4
10	基礎学力の不足を痛感する	69.7%	*
11	入学後、将来について希望がもてるようになった	67.3%	11.3
12	学内での盗難や器物破損の危険性を感じず	66.8%	*
13	入学後、人間性が豊かになった	66.3%	3.9
13	健康のために定期的な運動をしている	66.3%	8.7
15	入学後、勉学意欲がもてるようになった	65.4%	21.4
16	自分の学部は今後益々世間で評価される	64.4%	-2.8
16	勉学のためにゆとりの時間がもてない	64.4%	11.6
18	栄養のバランスに気がつかっている	63.5%	10.7
19	ボランティア活動を今後してみたい	63.0%	3.0
20	良い影響を受ける教職員に出会えた	59.6%	16.4

歯学部

入学から現在までの意識や行動について、歯学部では1位の「自分の学部の学部長名を知っている」が84.7%で14学部中トップとなっています。2位は「今の学部に入って良かった」（80.9%）、3位は「基礎学力の不足を痛感する」（77.6%）となっています。「他学部他学科に入りたかった」（45.9%）、「他大学への再受験を考えた」（36.6%）、「日大か浪人かで悩んだ」（43.7%）はいずれも14学部中トップであり、入学当初は不本意入学意識が見られるものの、現在は「入学直後に比べると日大の良さを認めるようになった」が14学部中トップの71.6%となっており、意識面の変化が大きい点が特徴です。

平成9年度と比較すると、「日大の良さを認めるようになった」は28.9ポイント増加しており、意識面の変化は強まってきていると言えます。さらに「入学後、勉強意欲がもてるようになった」（57.4%）、「良い影響を受ける教職員に出会えた」（60.7%）、「入学後、人間性が豊かになった」（64.5%）などでも20ポイント以上の大幅な増加が見られ、勉学に励むにつれて、満足度や勉強意欲が増していることがわかります。チュートリアル教育の効果が高まっていることがうかがえます。

入学から現在までの意識・行動(上位20位)		平成9年度からの増減(ポイント)	
1	自分の学部の学部長名を知っている	84.7%	9.1
2	今の学部に入って良かった	80.9%	18.0
3	基礎学力の不足を痛感する	77.6%	*
4	日大に入って良かった	76.0%	17.8
5	入学時に卒業後の進路・就職を意識していた	75.4%	-5.8
6	入学直後に比べると日大の良さを認めるようになった	71.6%	28.9
7	校舎内で火災・地震等発生時の安全性に不安を感じず	69.9%	*
8	今、将来の職業をどうしたいかがはっきりしている	68.9%	-5.7
9	今、はっきりとした目標をもって勉強している	65.0%	7.3
10	入学後、人間性が豊かになった	64.5%	20.4
11	自分の学部出身者は社会に有利	61.2%	-6.9
12	良い影響を受ける教職員に出会えた	60.7%	23.1
13	学内での盗難や器物破損の危険性を感じず	59.0%	*
14	健康のために定期的な運動をしている	58.5%	10.1
15	入学後、勉強意欲がもてるようになった	57.4%	24.5
16	自分の学部に誇りをもっている	56.8%	3.7
17	日大のスポーツの活躍は誇りになる	56.8%	16.0
18	できるだけ多くの授業に出て良い成績をとろうと思った	55.7%	19.1
19	ぼんやりと過ごす時間が多い	54.1%	7.6
20	栄養のバランスに気がつかっている	53.6%	3.8

松戸歯学部

入学から現在までの意識や行動について、松戸歯学部では「自分の学部の学部長名を知っている」が78.6%で1位、14学部中2番目となっています。次いで「入学時に卒業後の進路・就職を意識していた」が75.6%、「今、将来の職業をどうしたいかがはっきりしている」が75.2%、「今、はっきりとした目標を持って勉学している」が72.5%の順となっており、医学部・歯学部と同様、職業を意識し目標をもった勉学に励んでいることがわかります。他の学部と比較すると、「今の学部に入って良かった」では67.9%と14学部中最低であり、入学直後に学部の選択に満足していた学生の比率は相対的に低いようです。平成9年度と比較すると、「入学時進路を意識」「今、将来の職業をどうしたいかがはっきりしている」は10ポイント近く減少しており、「ぼんやり過ごす時間が多い」(54.2%)も13.7ポイント増となっていることから、歯科医師数過剰の厳しい現状を認識して、将来の職業への不安や悩みを持つ学生が増えているのかもしれない。「入学後、勉学意欲がもてるようになった」が21.4ポイント増、「良い影響を受ける教職員に出会えた」も16.4ポイント増となっており、入学後の勉学意欲や日大に対する評価は高まる傾向が見られます。

入学から現在までの意識・行動(上位20位)

平成9年度
からの増減
(ポイント)

順位	意識・行動	割合	増減(ポイント)
1	自分の学部の学部長名を知っている	78.6%	-3.8
2	入学時に卒業後の進路・就職を意識していた	75.6%	-9.0
3	今、将来の職業をどうしたいかがはっきりしている	75.2%	-8.9
4	今、はっきりとした目標をもって勉学している	72.5%	1.6
5	基礎学力の不足を痛感する	71.8%	*
6	日大に入って良かった	71.0%	11.1
7	今の学部に入って良かった	67.9%	6.7
7	勉学のためにゆとりの時間がもてない	67.9%	0.1
9	入学後、勉学意欲がもてるようになった	66.8%	21.4
10	学内での盗難や器物破損の危険性を感じる	65.3%	*
11	できるだけ多くの授業に出て良い成績をとろうと思った	62.2%	7.6
12	入学後、人間性が豊かになった	58.0%	1.6
12	健康のために定期的な運動をしている	58.0%	-0.6
14	良い影響を受ける教職員に出会えた	56.5%	16.4
15	自分の学部出身者は社会に有利	55.7%	1.5
16	日大のスポーツの活躍は誇りになる	55.3%	2.9
17	ぼんやりと過ごす時間が多い	54.2%	13.7
18	入学直後に比べると日大の良さ認めるようになった	53.4%	7.6
18	自分の学部に誇りをもっている	53.4%	3.6
20	日本大学校歌(一番)の歌詞を見ないで歌える	51.9%	-12.0

生物資源科学部

入学から現在までの意識や行動について、生物資源科学部では「今の学部に入って良かった」が87.7%で1位（14学部中3位）、次に「日大に入って良かった」が81.0%（14学部中トップ）で高く、学生の大半が入学直後大学・学部に関して満足していることがわかります。平成9年度と両項目を比較しても約10～15ポイント増加していることから、満足度は強まっています。

さらに平成9年度と比較すると、「入学直後に比べると日大の良さを認めるようになった」（16.6ポイント増）「入学後、勉学意欲がもてるようになった」（16.3ポイント増）で増加傾向が強く、現在の大学・学部に対する満足度や勉学意欲も高まる傾向が顕著に見られます。特徴のある学部であることに加え、今後のエコ社会の構築に向けて注目される分野も含まれることから、学生たちの勉学意欲も高まっていると言えるでしょう。

入学から現在までの意識・行動（上位20位）

		平成9年度からの増減 (ポイント)	
1	今の学部に入って良かった	87.7%	14.4
2	日大に入って良かった	81.0%	9.7
3	基礎学力の不足を痛感する	76.3%	*
4	入学直後に比べると日大の良さを認めるようになった	66.7%	16.6
5	入学後、人間性が豊かになった	62.6%	3.1
6	ボランティア活動を今後してみたい	60.1%	0.5
7	自分の学部は今後益々世間で評価される	58.8%	6.4
8	必要な基礎学力の補習を実施して欲しい	57.4%	*
9	自分の学部に誇りをもっている	56.4%	5.4
10	できるだけ多くの授業に出て良い成績をとろうと思った	56.3%	-2.8
11	日大のスポーツの活躍は誇りになる	54.4%	3.4
12	ぼんやりと過ごす時間が多い	53.9%	-2.0
13	入学後、勉学意欲がもてるようになった	53.6%	16.3
14	栄養のバランスに気をつけている	53.0%	0.6
14	大学は学生の個人情報に細心の注意を払っている	53.0%	*
16	入学時に卒業後の進路・就職を意識していた	49.8%	1.0
17	勉学のためにゆとりの時間がもてない	47.3%	4.1
18	今、はっきりとした目標をもって勉学している	45.8%	5.1
19	今、将来の職業をどうしたいかがはっきりしている	45.1%	2.4
20	良い影響を受ける教職員に出会えた	44.8%	4.4

*は平成9年度に無かった項目

薬学部

入学から現在までの意識や行動について、薬学部では「今の学部に入って良かった」と「基礎学力の不足を痛感する」が共に80.8%で1位、「自分の学部の学部長名を知っている」が73.4%で2位となっています。4位の「自分の学部出身者は社会に有利」（71.6%）では14学部で2番目に高く、学部帰属意識が高いという特徴が見られます。しかし、「日大に入って良かった」（67.5%）、「日大生であることを誇りに思う」（29.9%）、「日大出身者は社会に有利」（33.2%）はそれぞれ14学部中13位となっており、大学帰属意識は高くないようです。さらに、「人間性が豊かになった」（53.9%）、「創造性が養われた」（25.8%）、「自分に自信がついた」（26.2%）、「自分の才能を伸ばしてくれる」（31.0%）、「着々と勉学の成果をあげている」（26.9%）も14学部の中では13位から最下位に位置し、勉学面や人間としての成長という面で不安や不満を持つ学生も少なくないことがうかがえます。

平成9年度と比較すると「入学後、勉学意欲がもてるようになった」（56.5%）、「入学直後に比べると日大の良さを認めるようになった」（56.8%）が共に10ポイント以上増加し、勉学意欲の上昇傾向が見られています。

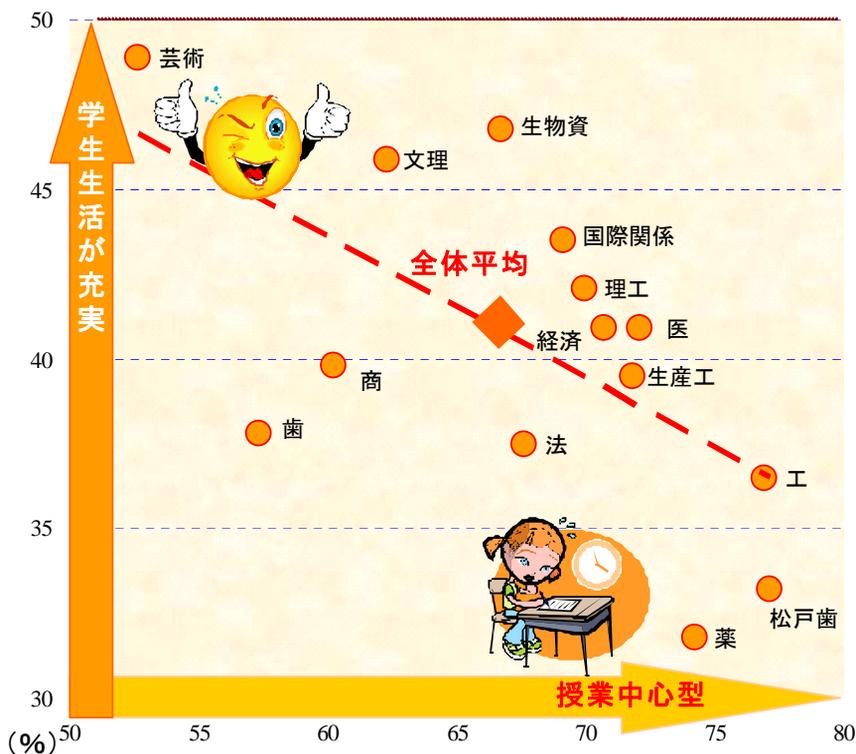
入学から現在までの意識・行動(上位20位)

平成9年度
からの増減
(ポイント)

1	今の学部に入って良かった	80.8%	-2.6
1	基礎学力の不足を痛感する	80.8%	*
3	自分の学部の学部長名を知っている	73.4%	1.6
4	自分の学部出身者は社会に有利	71.6%	-0.8
5	勉学のためにゆとりの時間がもてない	68.6%	7.8
6	入学時に卒業後の進路・就職を意識していた	67.9%	1.0
7	日大に入って良かった	67.5%	0.1
8	できるだけ多くの授業に出て 良い成績をとろうと思った	66.1%	-2.4
9	今、はっきりとした 目標をもって勉学している	60.1%	-1.8
10	ぼんやりと過ごす時間が多い	59.4%	5.8
11	自分の学部に誇りをもっている	58.3%	-11.3
12	自分の学部は今後 益々世間で評価される	57.2%	-4.7
13	入学直後に比べると 日大の良さを認めるようになった	56.8%	10.4
14	必要な基礎学力の 補習を実施して欲しい	56.8%	*
15	入学後、勉学意欲がもてるようになった	56.5%	12.3
16	大学は学生の個人情報に 細心の注意を払っている	55.0%	*
17	入学後、人間性が豊かになった	53.9%	3.1
18	栄養のバランスに気がつかっている	53.1%	2.8
19	学内での盗難や 器物破損の危険性を感じる	50.6%	*
20	ボランティア活動を今後してみたい	49.4%	-3.1

ゆとりある勉学が学生生活を充実させる？

学生の授業態度，学生生活の充実度，勉学のためのゆとり，この3つにはどんな関係があるのでしょうか？



授業態度と充実感とゆとりの関係

左の図は，勉学は授業が中心となっている，授業中心型の学生と，学生生活が「充実している」学生の比率の関係を示しています。

全体の傾向を見ると，授業中心型の学生の割合が低い学部ほど，学生生活が「充実している」学生の比率が高くなっています。つまり，勉学は授業が中心でないほど充実度が上がるというわけです。例えば，芸術学部は授業中心型の学生が53%と14学部中最も低いにもかかわらず，学生生活が「充実している」学生は49%と最も高くなっています。逆に，松戸歯学部では，授業を中心に勉学を行っている学生が77%と最高ですが，「充実している」と回答した学生は33%に過ぎませんでした。

この一見矛盾しているのではないかとも思える傾向をどのように考えることができるのでしょうか？

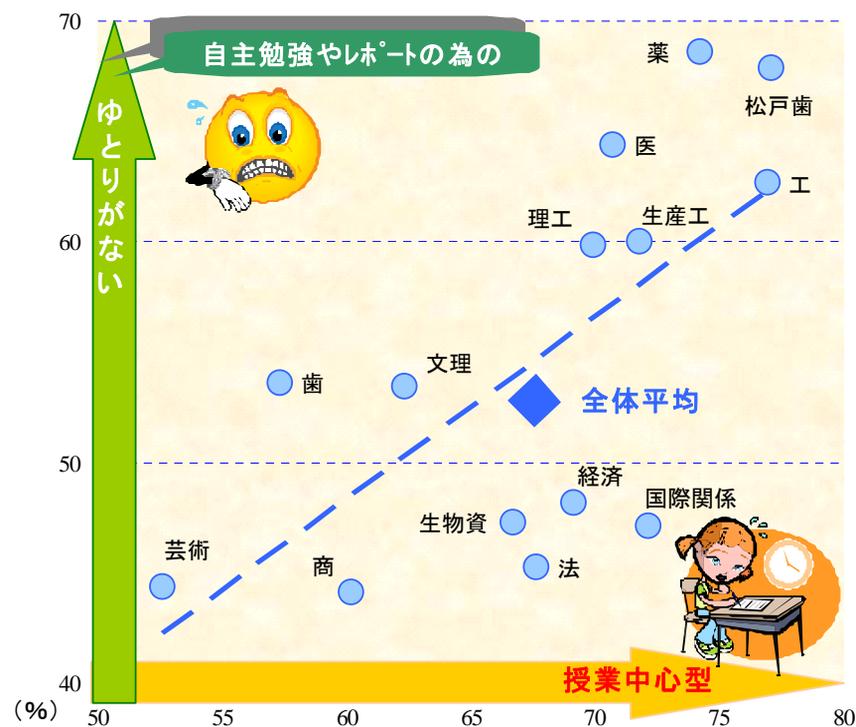
その問いに対するひとつの答えではないかと考えられるのが下の相関図です。授業中心型の学生に対して，「授業のための勉学やレポート作成のためにゆとりの時間がもてない」学生比率との関係を表しています。

全体の傾向を見ると，勉学は「授業が中心」であることと，「勉学やレポート作成の時間のゆとりが持てない」ことに相関関係が強く見られることが分かります。そこで，上下の2つの相関図を総合的に考えると，学生生活が充実していないと感じさせる要因の一つとして，日々の生活やその他の活動，授業そのものについていくことなどに時間を取られ，自主的な勉学に励む時間が取れず，常に時間に追われているように感じてしまうため，自分が望む学生らしい生活を送ることができないと感じてしまうのではないかと考えられます。

特に，医・歯学系，薬学，理工学系の学部においては，他の様々な専門的な知識や社会常識など，自主的に勉強したり学んだりする時間ももっと必要なのに，十分に行えないと感じている学生が多いと推察されます。

充実した学生生活とは，自分から積極的に学び，役立つ知識を蓄えるとともに，ゆとりを持ってさまざまな他の活動と両立していくことだと本学学生は考えているように思われます。

上記グラフ詳細：学生生活が「とても充実している」と「かなり充実している」の合計値と，授業態度の「積極的に勉学」と「必要な単位を着実に取得」の合計値の相関



上記グラフ詳細：「授業のための勉学やレポート作成などのためにゆとりの時間が持てない」と，授業態度の「積極的に勉学」と「必要な単位を着実に取得」の合計値の相関